

台湾科技大サマープログラム 2019

報告レポート

2019/09/25

エンジニアリングデザインコース

中川 凌

1、プログラム概要

2019年8月18日から8月30日の期間、国立台湾科技大学にて行われたサマープログラムに参加した。参加期間中は学生寮にて日本国内の他大学からの学生や台湾科技大のプログラム参加者とともに共同生活を送った。毎朝、学生寮からルームメイトとともに移動し、台湾科技大学のキャンパスでの講義や企業訪問などのプログラムに参加した。

2、講義内容

講義は、レクチャー方式・ワークショップ形式・実験プロジェクト形式で行われた。具体的な内容としてはコミュニケーションやデザイン思考法などといったものから、微生物燃料電池・大気圧プラズマ・創傷被覆材といったものまで幅広いテーマから行われた。制約上1つのテーマにつき1日での研修という形にはなってしまうため深い理解を目指すには多少の苦勞が予想されていたがどのテーマについても一方通行的な講義ではなくワークショップや実験・実習が用意されていたため、モチベーションを最後まで切らさずに学習意欲を保てた。講義は英語で行われていたがほぼ問題なく理解できていたので自分の英語スキルを確認する場にもなったと感じている。

3、サイトビジット

サイトビジットではULVAC、KINIK Company、SYM Motor、台湾資生堂、GARMINの5社を訪問した。訪問先では企業の特徴や歴史など、さらには日本とのかかわりなどについて説明を受けた後に実際の製造設備などを見学させてもらった。自分が普段学んでいる工学的分野の知識がどのように現場でいかされているかを実際に目で見て体感できるとも貴重な機会であった。このように現場を実際に訪れることは日常において簡単にはできないのでありがたく感じた。

また、メーカーにおいて現代では国内のライバル企業や市場だけではなく海外も視野に入れた方針が必要であると強く感じた。国際的なコミュニケーション能力を持った人材が重要であるのである。母語と英語だけではなく日本語も話せる方がいらしたのは正直驚いたが、それと同時に日本でも英語および中国語が使用できると大きな強みになるのではないかと感じた。

4、まとめ

本サマープログラムでは講義および企業訪問において専門知識を学ぶとともに短期間ではあるが国外での生活において現地の文化に触れながら教員、企業の方、サマースクールに参加した他のメンバーとの交流を通じて普段の大学生活では得られない体験をすることが出来た。この体験を自分自身の今後の糧としてより工学的、国際的な人材として成長していくことを目指したいと思う。